

糖尿病は歯周病を悪化させます

高血糖になると、歯周組織の血管の基底膜が肥厚し、歯肉部分の血液循環が悪くなります。また、歯周病原菌を貪食する多形核白血球の機能が低下し、さらに、歯肉のコラーゲン線維を溶解するコラゲナーゼの機能が亢進し歯周病が悪化します。

歯周病は患者さんから歯を奪い、食生活に大きく影響します。糖尿病の治療とともに、口腔内を清潔に保つ重要性を説明してくださるようお願いいたします。



健全な歯肉



歯肉が淡いピンク色。歯と歯の間の歯肉がシャープにしまっている。

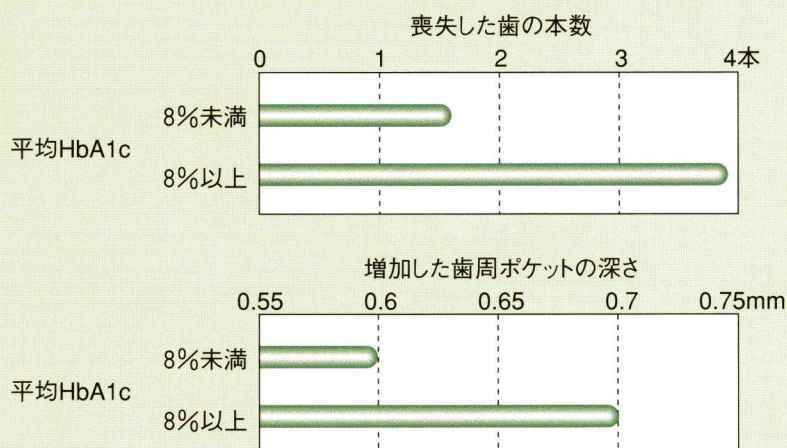
歯周病の歯肉



歯と歯の間の歯肉が丸みを帯びて赤く腫れている。歯みがきすると出血しやすい。

血糖コントロール別にみた10年間における歯科所見の変化

(診断と治療Vol.95増刊号 2007p338柴崎)



10年間の平均HbA1cが8%を超えると喪失する歯の本数は倍になり、また、歯周病の進行程度を示す歯周ポケットの深さもさらに大きくなります。

発行: 東京都多摩府中保健所

(平成19年度)

課題別地域保健医療推進プラン事業・

糖尿病医療連携を通じた歯周疾患予防の推進)

1 9年度調査（糖尿病と歯周疾患の関連）について

1 調査方法

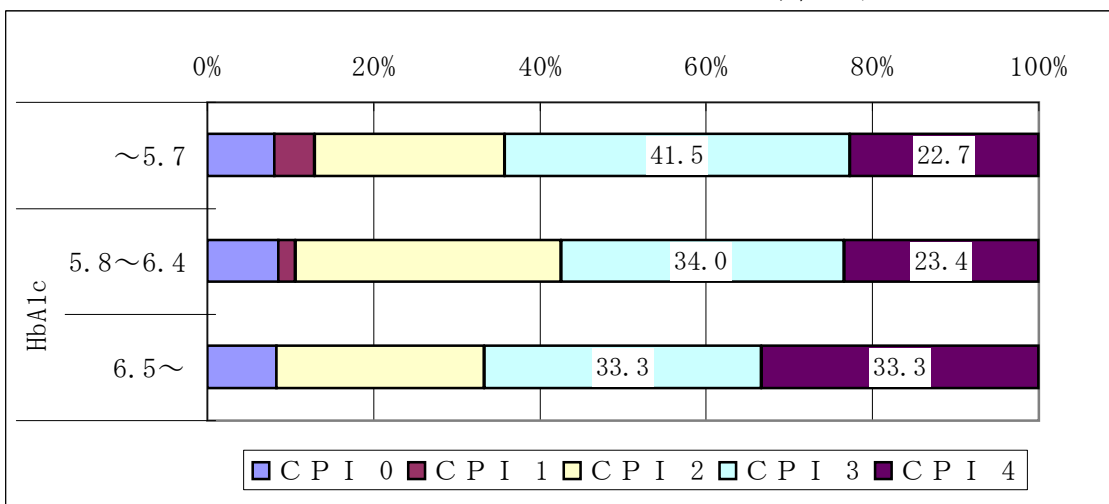
- (1) 三鷹市歯周疾患改善指導事業連携会議からデータの提供を受けて、糖尿病と歯周疾患の関連について検討した。
- (2) 18年度、基本健診受診者28836名、歯周疾患検診受診者1223名のデータを照合し、両健診を受けた934名のデータについて検討した。
- (3) 対象年齢は歯周疾患検診にあわせて、40、50、60、70歳の4年代とした。
- (4) 糖尿病の状態を表すHbA1cは日本糖尿病学会に基準を参考にして、5.7%以下、5.8～6.4%、6.5%以上の3段階に分類した。
- (5) 歯周疾患の進行程度を表すC P I（0～4）は、歯周疾患検診の基準に沿って0～2と3～4に分け、後者を重度歯周疾患とした。

2 調査概要

(1) HbA1cとC P Iの関係

		C		P		I
		0	1	2	3	4
HbA1c	～5.7	8.1	4.8	22.9	41.5	22.7
	5.8～6.4	8.5	2.1	31.9	34.0	23.4
	6.5～	8.3	0.0	25.0	33.3	33.3

単位：％



HbA1cが高いほど歯周疾患の程度が最も重いC P I 4の割合が高く、HbA1cが高いほど歯周疾患が重度になる傾向がある。

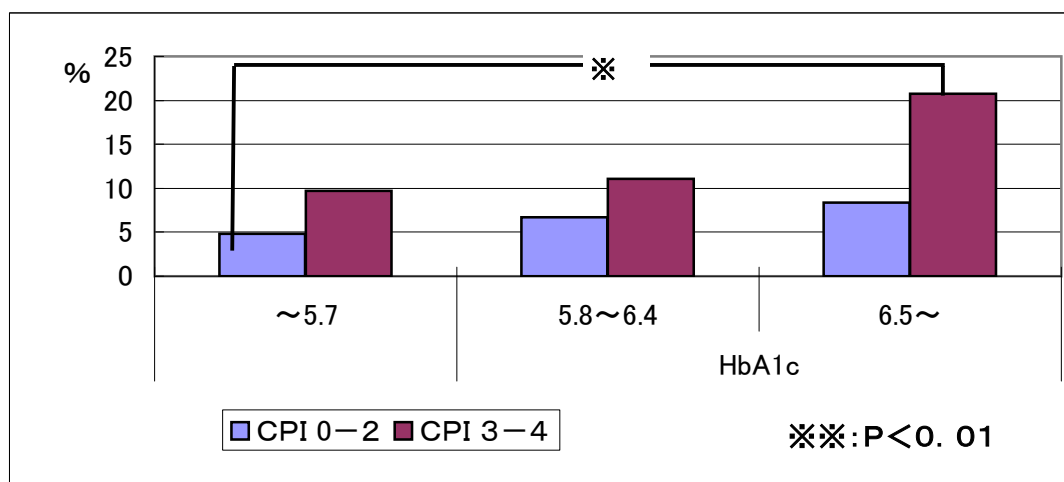
(2) 歯や口について不自由や苦痛を感じる割合

		C		P		I
		0	1	2	3	4
HbA1c	～5.7	3	4	8	22	31
	5.8～6.4	0	0	1	1	2
	6.5～	0	0	1	3	2

単位：名

		C P I	
		0－2	3－4
HbA1c	～5.7	4.8	9.7
	5.8～6.4	6.7	11.1
	6.5～	8.4	20.8

単位：％



歯や口で不自由や苦痛を感じる割合は、HbA1cが6.5以上で、歯周疾患が重度な群で高く、HbA1cが5.7以下で歯周疾患が軽度な群との間に危険率1%で有意差がある。

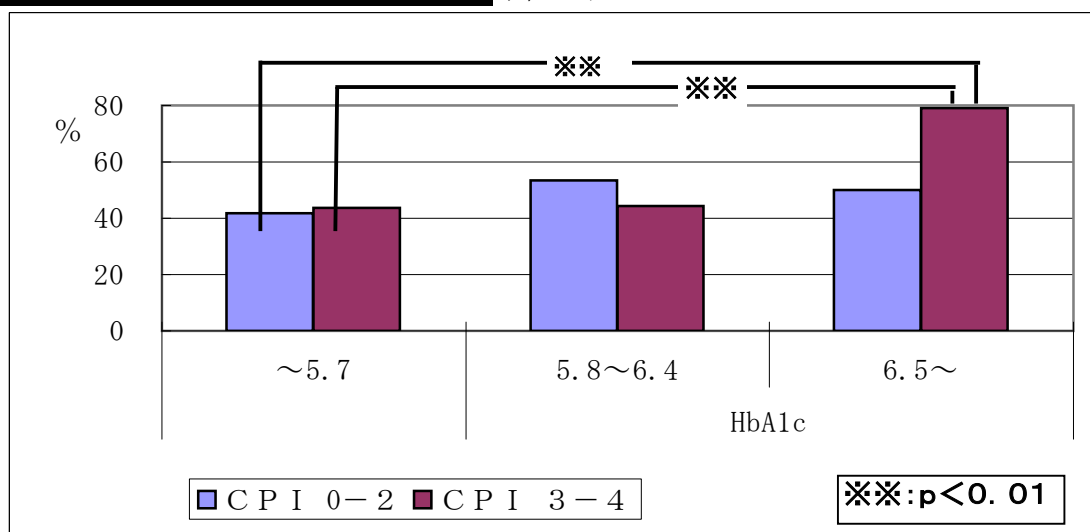
(3) 歯や歯ぐきの自己観察をしない割合

		C P I				
		0	1	2	3	4
HbA1c	~5.7	33	15	82	157	81
	5.8~6.4	0	0	8	6	6
	6.5~	2	0	4	9	10

単位：名

		C P I	
		0-2	3-4
HbA1c	~5.7	41.9	43.6
	5.8~6.4	53.3	44.4
	6.5~	50.0	79.2

単位：%



歯や歯ぐきの自己観察をしない割合はHbA1cが6.5以上で、歯周疾患が重度な群で最も高く、HbA1cが5.7以下で歯周疾患が軽度な群との間に危険率1%で有意差がある。

3 まとめ

- HbA1cが高くなるほど歯周疾患の程度が最も重いC P I 4の割合が高く、HbA1cが高いほど歯周疾患が重度になる傾向がある。
- HbA1cが6.5以上で歯周疾患が重度の群では、歯や口で不自由や苦痛を感じる割合が高いが歯周疾患を予防する保健行動を実践している割合は他の群より低い。
- 診療所と歯科診療所が連携して歯周疾患の予防を行う必要性が示唆された。